

生物教育学雑誌「投稿の手引き」

1. 原稿は、投稿規定を満たした上で、A4判、横書き、本文は1頁につき23文字44行2段組、文字サイズ10.5とし、以下の様式に従って作成する。
2. 日本語の文字は全角、英数の文字は半角とする。フォントは、日本語の本文はMS明朝体、見出しはMSゴシック体太文字（ボールド）、英数はCentury体を使用する。括弧は、日本語文中では全角、英文中では半角とする。
3. 日本語は「新かなづかい」により、平仮名まじり・である調・口語体とする。学術用語以外は原則として常用漢字を用いる。引用文献を含めて、日本語の句読点は全角とし「，」「。」を使用する。英文は半角を使用し、カンマ、ピリオド、コロン、セミコロンの後には半角スペースを入れる。
4. 学術用語は、できるだけ文部科学省学術用語集（動物学編・植物学編・遺伝学編）に従う。
(ア) 生物名は片仮名書きとし、初出の箇所には原則として片仮名の後ろに（ ）で学名を入れ、イタリック体とする。（例）ノアザミ(*Cirsium japonicum*)。
(イ) 外国地名・外国人名は原則として片仮名とし、後ろに（ ）で原語を入れてもよい。
5. 論文の本文は原則として、「はじめに」「材料および方法」「結果」「考察」の順とする。「はじめに」には、研究の背景や動機を書くとともに、先行研究に触れること。また、必ず研究の目的を端的に書くこと。ただし、実験・観察以外の論文でこの順ではまとめにくいものについては、その限りではない。また、結果と考察としたり、教材化のための考察を加えたりすることができる。章、節、項等には、I、1、(1)、①の順に見出しをつける。
6. 文献等からの引用は最小限にとどめ、先行研究と引用内容が明確になるように、（文献番号を肩書するのではなく）本文中に示す。著者2名は「・」を用い連名（発表年）で書き、3名以上の著者の場合は、筆頭著者名+「ら」（発表年）で書く。
(例) 主語に用いる場合： 楠元（1990）によれば、・・・
文中に用いる場合： ……と考えられた（楠元・斎藤，1990）が、培地条件を・・・
文末に用いる場合： ……とされた（楠元ら，1990）。
7. 引用文献の記載方法の詳細は、日本生物教育学会の「生物教育」投稿原稿作成要領 (http://sbsej.jp/publish/file/02_sbsej_yoryo.pdf?201710) の「3.文献の参照・引用」の項に同じとする。原則として、「著者名(発表年)+半角スペース+論文題. 掲載誌+:+半角スペース+ページ-ページ」とする。ただし、発表年の()は半角、掲載誌名の後ろの「:」は半角、数字および「-」と「.」は半角とする。
(例) 楠元 守・木下鉄雄・長岡宏治(1990) フタホシコオロギの配偶行動. 生物教育学雑誌 1: 1-6.
8. 引用文献は、著者名のアルファベット順に書く。印刷公表された文献以外のもの（例えば web 上に PDF で公表されたもの）も引用することができる。7.に従って引用して取り扱う。
9. 年号は西暦で表記する。官公庁等が公表した元号で書かれたもの等は、西暦に変換して元号と併記する。
(例) 文部科学省の高等学校学習指導要領平成 30 年（2018 年）によれば、・・・。
10. 単位系は SI 単位系を用いる。ただし、℃（セルシウス度）、lx（ルクス）、h（時）、°（度）、L（リットル）等、SI 単位系と併用できる単位は使用してかまわない。
11. 数字と単位記号の間は半角スペースを空ける。数や量を表す文字記号はイタリック体で表記する。
12. 略称・略号を用いる場合は、初出の箇所で、その完全な名称とともに示す。
13. 図や写真は「第○図」と表し、図の下部にキャプションとともに示す。表は「第○表」とし、表の上部にキャプションとともに示す。図・表は、本文と密接な関係があるものに限り、また、本文中に記述する。
14. 図・表については原稿中の適切な位置に、必要最小限の大きさと挿入する。
15. 図・表のキャプションは、必要に応じて 10.5 より小さなポイントを使用してもよい。
16. 図・表とキャプションは「投稿テンプレート」に従い、グループ化した状態とする（本文中に図・表とキャプションを挿入しない）。
17. 手描きのスケッチ等は電子ファイル化して図として挿入する。
18. 図・表はカラーを用いてよいが、モノクロ印刷（または白黒コピー）した場合でも内容が分かるように配慮する。

2019年1月10日制定